

第62期 中間株主通信

2019年2月1日～2019年7月31日



福岡 ヤフオク!ドーム



株主の皆様におかれましては、日ごろより格別のご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。

代表取締役社長 高橋 貴志

■上半期を振り返って

当第2四半期連結累計期間(2019年2月1日～2019年7月31日)における我が国経済は、雇用や所得環境の改善効果もあり、緩やかな回復基調が継続しました。

当ディスプレイ業界の事業環境につきましては、公共投資が底堅く推移していることや企業の設備投資が緩やかに増加していることもあり、引き続き堅調に推移しました。

このような状況のもと当社グループは、中期経営計画(2019年1月期～2021年1月期)に基づき、市場の活性化が見込まれる中期経営計画期間中の需要増加を確実に取り込むとともに、継続的な成長と更なる企業価値の向上を目標に事業活動を展開してまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は366億95百万円(前年同四半期比10.4%減)となり、営業利益は25億7百万円(前年同四半期比12.1%減)、経常利益は26億4百万円(前年同四半期比10.7%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は17億68百万円(前年同四半期比9.1%減)となりました。

なお、当第2四半期連結累計期間の受注高は429億16百万円(前年同四半期比13.3%増)となりました。

■通期の見通し

今後の見通しにつきましては、雇用および所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあり、緩やかな景気回復が期待されます。

当社グループを取り巻く環境につきましても、人手不足に伴う外注

コストの増加等が懸念されるものの、東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた諸施設の整備や都市再開発案件の増加、大阪・関西万博の開催決定、観光立国を目指した需要の増加等、明るさも見られ、引き続き改善が期待されます。

なお、2020年1月期の業績予想につきましては、売上高840億円、営業利益は54億円、経常利益は55億円、親会社株主に帰属する当期純利益は37億500万円となっております。

■中期経営計画(2019年1月期～2021年1月期) (百万円)

売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	ROE(%)
2019年1月期実績				
82,677	5,025	5,219	4,206	16.0
2020年1月期計画				
84,000	5,400	5,500	3,750	13.5
2021年1月期計画				
87,500	6,100	6,200	4,200	14.1

■配当金について

当期の中間配当金は、1株当たり20円とさせていただきます。また、期末配当金は、1株当たり20円を予定しており、年間配当金は、1株当たり40円となる見込みです。

株主の皆様におかれましては、今後とも、より一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2019年10月

商業その他施設事業

連結売上高 **212億6百万円** (前年同四半期比 10.9%減)

連結営業利益 **15億36百万円** (前年同四半期比 17.3%増)

商業その他施設事業においては、市場環境は引き続き良好であり、ホテルや大型スポーツ施設等の案件を手掛けたものの、翌四半期以降へ繰り越す案件が増加したこともあり、売上高は前年同四半期を下回りました。しかしながら、収益性を重視した受注活動を行った結果、営業利益については前年同四半期を上回りました。



SHIBUYA109渋谷TMOG MOG STANDJ

チェーンストア事業

連結売上高 **98億40百万円** (前年同四半期比 0.6%増)

連結営業利益 **5億92百万円** (前年同四半期比 6.8%減)

チェーンストア事業においては、飲食店分野が堅調に推移したことから、売上高は前年同四半期を上回ったものの、営業利益については前年同四半期を下回りました。



AlpenOutdoors FLAGSHIP STORE 柏店

文化施設事業

連結売上高 **54億53百万円** (前年同四半期比 22.5%減)

連結営業利益 **2億84百万円** (前年同四半期比 63.1%減)

文化施設事業においては、前期と比較して大型案件が少なかったこと等から、売上高、営業利益ともに前年同四半期を下回りました。



©横手市増田まんが美術館
横手市増田まんが美術館

その他

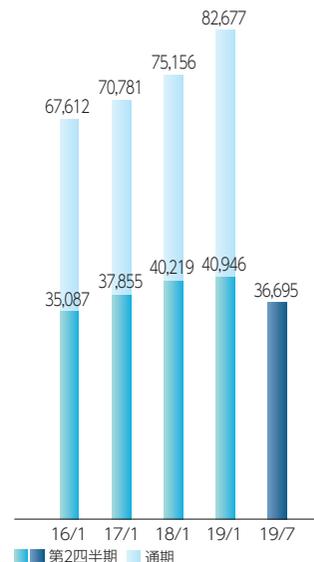
連結売上高 **1億95百万円** (前年同四半期比 37.8%減)

連結営業利益 **1億9百万円** (前年同四半期比 14.8%減)

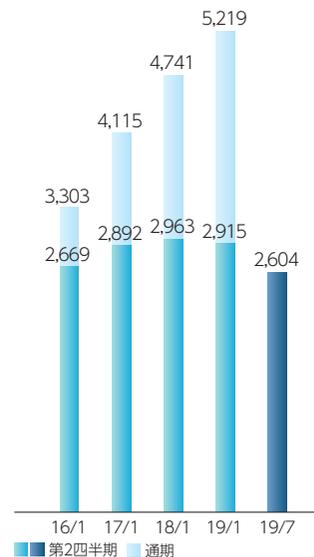
その他においては、前期に連結子会社のうち1社の株式を譲渡し、連結の範囲から除外したことに伴い、売上高、営業利益ともに前年同四半期を下回りました。

連結財務ハイライト

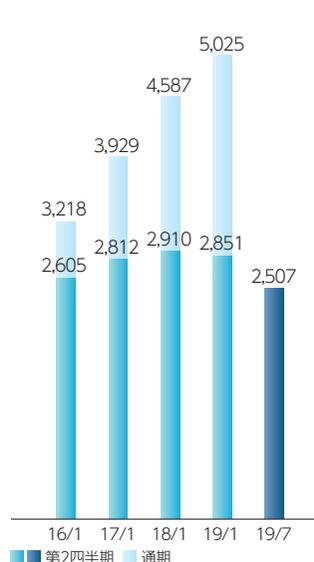
売上高 (単位:百万円)



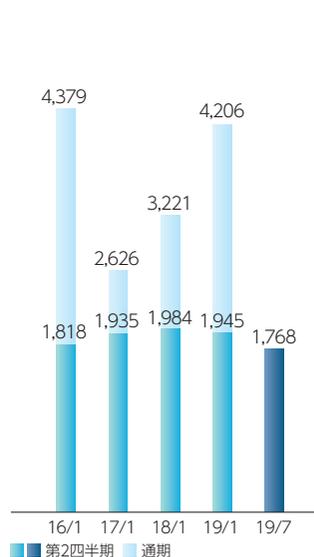
経常利益 (単位:百万円)



営業利益 (単位:百万円)



親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (単位:百万円)



(注) 2016年1月期については、日本社の土地の売却等により特別利益を計上し、親会社株主に帰属する当期純利益が高く計上されております。

連結財務諸表

連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	前期末	当第2四半期末
	2019年1月31日現在	2019年7月31日現在
流動資産	35,412	38,772
固定資産	8,209	8,341
流動負債	16,072	19,456
固定負債	626	606
純資産	26,922	27,051
総資産	43,622	47,114

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	前第2四半期	当第2四半期
	自2018年2月1日 至2018年7月31日	自2019年2月1日 至2019年7月31日
売上高	40,946	36,695
売上原価	33,723	29,673
売上総利益	7,223	7,021
営業利益	2,851	2,507
経常利益	2,915	2,604
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,945	1,768

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	前第2四半期	当第2四半期
	自2018年2月1日 至2018年7月31日	自2019年2月1日 至2019年7月31日
営業活動による キャッシュ・フロー	2,670	△871
投資活動による キャッシュ・フロー	△326	16
財務活動による キャッシュ・フロー	△1,522	△1,568
現金及び現金同等物の 四半期末残高	15,190	14,514

詳細な財務情報は、当社ウェブサイトIR情報をご覧ください。

アドレスはこちら▼

<https://www.tanseisha.co.jp/ir/>

次世代型複合エンターテインメント施設に変身した「福岡 ヤフオク!ドーム」



ドーム開業後初となる大規模改修プロジェクト

福岡ソフトバンクホークス株式会社(以下、ソフトバンクホークス)様は、本拠地移転30周年事業として福岡 ヤフオク!ドームの大規模改修工事を実施し、2019年2月28日にリニューアルオープンしました。



地元ファンに加え外国人観光客の来場者が今後増加することを見越し、観戦スタイルの変化により多角的なファンサービスが求められ、球場自体も完成から25年が経過していたこともあり、これまでにない大規模改修プロジェクトとなりました。1周ぐるりと回遊可能な600mのコンコースは白と黒を基調とした空間デザインに一新、非日常感を演出するとともに強いチームを表現し、150枚以上のLED・LCDモニターを設置してアリーナの大型ビジョンと連動することで、高揚感や期待感を高めます。また8カ所のゲートをそれぞれ選手やチーム、福岡、九州等をモチーフにデザインし、店舗のファサードや什器等のデザイン、館内の照明計画も全面的に見直しました。

移設される王貞治ベースボールミュージアムの跡地には、会員専用ラウンジやビジターファン専用スペース等を設置し、さらに要望の多かったトイレの全面改修や案内サインのリニューアル等も行い、球場全体が「次世代型複合エンターテインメント施設」として生まれ変わりました。

スタイリッシュなデザインと映像による「非日常感」の演出

ソフトバンクホークス様からの当初のご要望は、「ファンサービスの向上」およびトイレや案内サインなどの改修による「設備の向上」に加え、来場者の満足度向上につながる空間デザインや映像による演出などができないかというご要望でした。

当社はこれらのご要件を取り入れつつ、この球場にしかない「ソフトバンクホークスならではの」コンセプトの構築に取り組みました。ソフトバンクホークス様との話し合いを重ねた結果、コンコースを映像で埋め尽くす空間演出の導入が決まりました。そして、現場で原寸模型を作り様々な角度から検証を行い、主役である映像を引き立たせ、スタイリッシュなデザインにするため、コンコースのデザインをモノトーンに統一することになりました。こうして、「黒と白」のデザインと映像の活用により「非日常感」の空間演出を実現出来ました。また映像についても、選手の躍動感を表現するため、幾度も議論と試行錯誤を繰り返して完成させました。

一方、ファンサービスについては、ソフトバンクホークス様と綿密な打ち合わせを行い、会員専用ラウンジを作ることでプレミアム感を演出しました。ポイントグッズ交換所のほか、写真撮影スポットとして忠実に実物を再現したチームベンチを設置するなど、コアなファンのニーズに寄り添った企画を提案して実現しました。

徹底した作業効率化で、設計・施工共に工期を短縮



プロジェクトの最大の課題はスケジュールでした。基本設計が決まったのはリニューアルを半年後に控えた2018年8月末。コンサートなどのイベントがない全館閉鎖期間は43日しかなく、試行錯誤の連続でした。

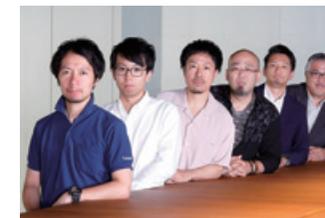
そこで時間を短縮するために、定例会の効率化を図りました。ソフトバンクホークス様のスタッフと合同で7つの分科会を毎週開催していましたが、各会議に参加した当社のスタッフが集まる会議を別に催し、関連する決定事項や進捗状況などを連絡・共有することで、次の各分科会における決定の迅速化につなげました。また、仕様が決定した部分から、前もって工場で製作を進め、できたものを貸倉庫に保管し、施工可能日に現場に運んで一気に設置しました。

また、原寸模型の活用も時間短縮に貢献しました。図面だけでは具体的なイメージを共有しづらく、特に今回はコンコースのデザインとしては他の野球場にはない黒が中心になることから、空間全体が暗くなるのではないかと懸念もあったため、原寸模型を見て納得していただくとともに、改善箇所を検討する際にも利用でき、迅速な判断と決定に役立ちました。

こうして期間内に無事リニューアルを完了させることができました。訪れたお客さまへのアンケートやSNSなどによる評判や満足度も高く、来場者数やテナントの売上げも改修前を大きく上回り、ソフトバンクホークス様からも高い評価をいただきました。

本プロジェクトは短期間の納期でありながら、お客さまとのコミュニケーションを綿密に取りながら、チーム全員がそれぞれの立場で工夫を凝らし協力し合うことで、数々の課題を乗り越えることができました。また、世界一ともいえる大規模ドーム球場の改修にチーム一丸となって取り組んだことは、当社にとっても大きな財産となりました。

プロジェクトに携わったメンバー



(手前から)
 テクニカルディレクション 佐竹 敬司
 映像プロデュース 賀本 航
 クリエイティブデザイン 安藤 圭
 クリエイティブデザイン 山本 啓介
 プロジェクトマネジメント 西野 亮介
 デザインディレクション 小岩井 淳雄

ファッションブランド「ANREALAGE」と共創プロジェクトを始動しました

ファッションの領域を拡張する活動を続けるファッションブランド「ANREALAGE(アンリアルエイジ)」と6月1日に業務提携を締結し、ファッション体験空間を具現化する共創プロジェクトを開始しました。



左:当社CMIセンター長 菅野, 右:アンリアルエイジ 森永社長

「ファッション×テクノロジー」で新たなファッション体験を創造するアンリアルエイジと、「空間×テクノロジー」で新たな空間体験の提供を続ける当社が、お互いのノウハウや技術情報等を用いた実証実験・開発を行い、次代の衣服の在り方や可能性を提示するプロジェクトを推進します。そして、「ファッション」および「空間」領域の拡大、そしてファッション価値、空間価値の向上を目指します。

デジタルミラー「MYCLO」を開発しました

店舗で商品を試着した姿を撮影・比較・保存し、スマートフォンから履歴にアクセスできる新たなデジタルミラー「MYCLO(マイクロ)」を開発しました。

「MYCLO」は、ユーザー(来店客)と店舗・メーカーの抱える課題を解決するために当社がオリジナルで制作しました。アパレルをはじめ物販店・専門店など商業施設づくりに携わってきた当社独自の視点とノウハウ、そしてデジタルコンテンツ技術を掛け合わせ、開発を進め



レセプションエリアにて「MYCLO」の実機を展示しました

ました。「MYCLO」の仕様や機能は店舗ごとにカスタマイズが可能で、店舗のフィッティングルームや売場に設置でき、店内の鏡として小型店舗にも導入できます。

当社は今後もユーザーと事業主の課題解決のため、新たなソリューションの開発を続けてまいります。

ウェブサイトのご案内

当社のウェブサイトでは株主・投資家の皆様に対して、企業情報や財務情報をはじめとして、積極的に情報開示を行っております。

当社をよりご理解いただくためにも、ぜひご利用ください。

<https://www.tanseisha.co.jp>



会社概要 (2019年7月31日現在)

商号	株式会社丹青社
設立	1959年12月25日
資本金	40億2,675万657円
従業員数	994名(連結:1,269名)

役員 (2019年7月31日現在)

代表取締役会長	青田 嘉光	取締役 常勤監査等委員	河原 秀司
代表取締役社長	高橋 貴志	社外取締役 監査等委員	松崎 也寸志
取締役常務	徳増 照彦	社外取締役 監査等委員	長谷川 明
取締役常務	戸高 久幸	社外取締役 監査等委員	新島由未子
取締役常務	小林 統		
取締役	中島 実		
取締役	篠原 幾徳		
取締役	森永 倫夫		

株式の状況 (2019年7月31日現在)

株式の総数	
発行可能株式総数	187,200,000株
発行済株式総数	48,424,071株
株主数	6,722名
大株主	

株主名	持株数	持株比率
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	4,955千株	10.30%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,335	6.93
丹青社取引先持株会	2,374	4.94
第一生命保険株式会社	1,907	3.96
株式会社三井住友銀行	1,500	3.12
株式会社三菱UFJ銀行	1,482	3.08
ファンネックス・アセット・マネジメント株式会社	1,450	3.01
日本生命保険相互会社	1,446	3.01
丹青社従業員持株会	1,218	2.53
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	1,027	2.14

※持株比率は、自己株式(316,823株)を除いて算出しております。

株主メモ

事業年度	2月1日から翌年1月31日まで
配当金受領株主確定日	期末配当1月31日/中間配当7月31日
定時株主総会	毎年4月
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	東京都府中市日鋼町1-1 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 Tel.0120-232-711(通話料無料)
同郵送先	〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場金融商品取引所	東京証券取引所 市場第一部
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL https://www.tanseisha.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。)

株主の皆様の声をお聞かせください

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

<https://www.e-kabunushi.com/>
アクセスコード 9743

いいかぶ

検索

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2か月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社 a2media(イー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。(1809)

●アンケートのお問い合わせ TEL:03-6779-9487(平日 10:00~17:30)
[e-株主リサーチ事務局] MAIL:info@e-kabunushi.com

撮影:御園生大地、石井紀久、フォトクラフト社、土田有里子

ここを動かす空間をつくりあげるために。

株式会社 丹青社

〒108-8220 東京都港区港南一丁目2番70号
Tel. 03(6455)8100(代表)
Fax. 03(6455)8220(代表)

